



2017年1月のある日。テーマとプログラム構成の討議を目的に集まった学会コア・メンバーのミーティングから今回の「春のシンポジウム」はスタートしました。議論が白熱し、シンポジウム案に関する話を超え「新しいビジネスが生まれる要件は？」的な“そもそも論”で盛り上がった時、メンバーの一人がぼそっとつぶやいたのがシンポジウムのキーワードに据えた“不協和音”という言葉です。同時多発で起こる技術革新を大胆な発想と勇気ある行動で価値に転換し、ビジネスにしていく。まさに、“不協和音への挑戦”が、次のビジ

ネスモデルを生み出し、社会そのものを大きく変えていく。ならば、各領域の第一人者の方々に“不協和音”をテーマに自由に語ってもらおう。そんな我々の思いから実現したのが、今回の豪華ゲストによるシンポジウムです。

当日は、ソニー元会長の出井さんの基調講演からスタートし、技術、社会から教育まで幅広い領域の識者が鋭い知見と熱い思いを次々と披露してくださいました。そんな半日でしたが、講師間の事前打ち合わせが一切無かったにもかかわらず、講師全員が「フィロソフィー」「ビジョン」「パーパス」という言葉を多用していたことが個人的には印象的でした。表現方法は違えど全員が「今まさに社会の企業への希求が大きく変化している。これまでは、最新技術を駆使して新しい“便利”を生み出せばよかった。でも、これからはそれに加えて、自ら生み出した“便利”の集積がどんな社会を創り出すのかまでをも描き切ることが必要だ」と指摘しているように感じました。

私自身は、先端技術とビジネスの掛け算による新しいビジネスモデルの可能性について活発に議論されることを予想していたので、この展開はかなり想定外でした。司会者としては議論の出口が読みにくくドギマギしながらの進行でしたが、異なる領域の先端を鋭く見ている識者の方々が異口同音に指摘しているのを目の当たりにし、これこそがビジネスの潮流に違いないと思わずワクワクもしました。「スピーディに新しい便利を生み出す時代」から「便利の先にある社会価値をも追求する時代」へ。ビジネスの成功要件がこんな風になるのだとしたら、哲学を重んじる日本企業がふたたび自らの特質を活かして世界のビジネスを牽引する時代が来るかもしれない。そんな期待も抱いた半日でした。



こんな刺激的なシンポジウムが実現できたのは、ひとえに講師の皆さまが惜しみも無く、最新の知見をご披露くださったからだと思います。最後になりましたが、講師の皆さま、並びに、このような豪華な講師をお招きすることにお力添えくださった協力者の皆さまにお礼を申し上げます。今後もビジネスモデル学会では新しい知恵の創出に挑戦していきます。学会員の皆さま、並びに、今回初めてご参加いただいた皆さま、今後とも当学会のユニークな挑戦にご期待のうえ活動にご参画いただければ幸いです。

資料「2017 年春季シンポジウム・プログラム」

日時 2017 年 5 月 21 日 [日] 13:00 - 18:00 (懇親会 18:30 - 20:30)

会場 早稲田大学・小野記念講堂

大会実行委員長挨拶

AI、ロボティクス、デジタルバイオロジー、AR、VR、エネルギー、宇宙、…。いま、さまざまな領域で同時多発する技術の進化と融合が社会を大きく変えようとしています。そしてビジネスの世界も、新たな技術を社会価値や生活価値に変換させることで、次の社会づくりを力強くリードすることが期待されています。そこに求められるのは、望ましい未来社会を緻密に描きながら、その実現の為に新しいビジネスモデルに大胆に挑戦すること。「不協和音」を恐れずに、むしろ異質の掛け算から「不協和音」を意図的に創り出していくこと。今回のシンポジウムのタイトルは、「不協和音の価値創造～ビジネスが創り出す、新未来社会～」。“不協和音”というキーワードでこれからのビジネスモデルを探索していきます。

第一部 講演

挨拶 ビジネスモデル学会の目指すもの

ビジネスモデル学会 会長 平野 正雄

基調講演 1

近づく“第2の隕石” - 新しい世界のビジネスモデルをいかに生み出すか -

クオンタムリープ株式会社 代表取締役 出井 伸之

ビジネスモデル対談 1

トランプ時代がもたらす「ビジネスモデル」の変容

FERMAT Inc. 代表 池田 純一 vs. 「WIRED」日本版 編集長 若林 恵

基調講演 2

AI が変えるビジネスの未来

駒澤大学准教授 井上 智洋

ビジネスモデル対談 2

進化するテクノロジーと経営の未来

特定非営利活動法人 ISL 代表 野田 智義 vs. ビジネスモデル学会 会長 平野 正雄

ビジネスモデル大賞 発表

第二部 懇親会

登壇者プロフィール



出井 伸之 クオンタムリープ株式会社 代表取締役

1937 年東京都生まれ。1960 年早稲田大学卒業後、ソニー入社。主に欧州での海外事業に従事。オーディオ事業部長、コンピュータ事業部長、ホームビデオ事業部長など歴任した後、1995 年社長就任。以後、10 年に渡りソニー経営のトップとして、ソニー変革を主導。退任後、クオンタムリープ設立。NPO 法人アジア・イノベーターズ・イニシアティブ理事長。『日本大転換』（幻冬舎新書）、『日本進化論』（幻冬舎新書）他。



池田 純一 コンサルタント、Design Thinker

コロンビア大学大学院公共政策・経営学修士 (MPA)、早稲田大学大学院理工学研究科修士 (情報数理工学)。電通総研、電通を経て、メディアコミュニケーション分野を専門とする FERMAT Inc. を設立。『ウェブ×ソーシャル×アメリカ』『デザインするテクノロジー』など著作多数。「WIRED.jp」での連載が書籍化された『〈ポスト・トゥルース〉アメリカの誕生 ―ウェブにハックされた大統領選―』（青土社）が 2017 年 2 月に刊行。



若林 恵 「WIRED」日本版 編集長

1971 年生まれ、ロンドン、ニューヨークで幼少期を過ごす。早稲田大学 第一文学部 フランス文学科卒業。大学卒業後、平凡社に入社。『月刊 太陽』の編集部スタッフとして、日本の伝統文化から料理、建築、デザイン、文学などカルチャー全般に関わる記事の編集に携わる。2000 年にフリー編集者として独立し、以後、『Esquire 日本版』『TITLE』『LIVING DESIGN』『BRUTUS』『GQ JAPAN』などの雑誌、企業や大使館などのためのフリーペーパー、企業広報誌の編集制作などを行ってきたほか、展覧会の図録や書籍の編集も数多く手がけ

ている。また、音楽ジャーナリストとして『intoxicate』『MUSIC MAGAZINE』『CD Journal』等の雑誌で、フリージャズから K-POP まで、広範なジャンルの音楽記事を手がけており、近年では音楽レーベルのコンサルティングなども行っている。



井上 智洋 駒澤大学経済学部准教授。博士（経済学）

慶應義塾大学環境情報学部卒業。2011 年に早稲田大学大学院経済学研究科で博士号を取得。早稲田大学政治経済学部助教、駒澤大学経済学部講師を経て、2017 年より同大学准教授。専門はマクロ経済学。最近は人工知能が経済に与える影響について論じることが多い。AI 社会論研究会共同発起人。著書に『新しい Java の教科書』『人工知能と経済の未来』『ヘリコプターマネー』などがある。



野田 智義

**全人格リーダーシップ教育機関アイ・エス・エル (ISL) 創設者
一般財団法人 大学院大学至善館設立準備財団 代表理事**

東京大学法学部卒業後、日本興業銀行入行。マサチューセッツ工科大学 (MIT) スローンスクールより経営学修士号 (MBA)、ハーバード大学より経営学博士号 (DBA) 取得。ハーバード大学 ジョン・F・ケネディ行政大学院特別生、ロンドン大学ビジネススクール助教授、インシアード経営大学院 (フランス、シンガポール) 助教授を経て帰国。2001 年 7 月、全人格リーダーシップ教育機関 アイ・エス・エル (ISL, Institute for Strategic Leadership) を創設。その他、2012 年 4 月 - 2017 年 3 月の 5 年間、公益社団法人経済同友会 東北未来創造イニシアティブ協働プロジェクトチーム委員長を務める。稲盛財団イナモリ・フェロー (第二期)。

経営学者時代は組織戦略論が専攻で、既存企業における戦略策定・資源配分・事業創造・戦略統合プロセスについての研究成果を、Academy of Management Journal, Strategic Management Journal, Harvard Business Review などに発表。インシアード経営大学院においては、最優秀教授賞を 3 年連続で受賞した経歴を持つ。京都市出身、1959 年生まれ。著書に『リーダーシップの旅』(金井壽宏共著 光文社新書)、訳書に『アクション・バイアス』(ハイケ・ブルック スマントラ・ゴシャール著 東洋経済新報社)がある。

現在、米国型 MBA 教育のあり方を、ここ日本とアジアから再構築し、グローバルに開かれた全人格リーダーシップを行う新しい大学院大学至善館の 2018 年 8 月開校を準備中。



平野 正雄

ビジネスホテル学会会長、早稲田大学ビジネススクール教授

1987 年から 20 年間、マッキンゼー&カンパニーにビジネスコンサルタントとして勤務。ハイテク産業や製造業から医薬品や金融までの幅広い産業分野において、企業の経営戦略、組織変革、グローバル化、M&A、コーポレートガバナンスなどの経営課題の解決に従事。この間、1998 年から 2006 年までマッキンゼー日本支社長。その後、プライベート・エクイティー大手のカーライルにおいて複数の日本企業のマネージメントバイアウト (MBO) 投資に参画。工学博士 (東京大学)。



八木 祥和 ビジネスホテル学会プリンシパル

1989 年 NEC 入社。海外現地法人の設立や CI 刷新業務に従事した後、1996 年博報堂に転職。マーケティングプランナーとして得意先企業の市場調査や商品開発、コミュニケーションに関わる業務に従事した後、博報堂のナレッジマネジメントの構築を推進。MD 統括局長代理、ショッパー・リテールマーケティング局長を経て、2017 年 4 月より公益財団法人博報児童教育振興会に出向。現在、同財団の研究開発局長兼博報財団こども研究所長。ほか、2016 年より東洋大学非常勤講師。



会場ワンシーン